【瑞穂町】

校務 DX 計画

これまで「瑞穂町 ICT 教育施設整備計画」に基づき、校務支援システムや校内ネットワークなど、小中学校の ICT 環境の整備を進めてきた。

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言、「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果を踏まえ、紙ベースでの会議や業務、校務系と学習系のデータ連携、教職員の校務場所が職員室等に限定されている等の課題が存在している。

そのため、以下の項目について調査または取組をしていく。

１．ゼロトラストに基づいた校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合

これまでセキュリティのために校務系ネットワークと学習系ネットワークを分離させて整備してきたが、分離しているため校務系と学習系のデータの共有に USB メモリが必要になるという課題がある。また、「GIGA スクール構想の下での校務 DX について」における次世代の校務 DX の方向性では、校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合を推奨している。これらのことから、ゼロトラストに基づいたセキュリティ対策を講じた校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合を進める。

現在、校務支援システムは学齢簿システムにより出力されたデータを取り込むことで手入力作業を削減しているが、ネットワークの統合により、保護者連絡ツールや学習 e ポータル等と校務支援システムの連携を図る。

２．教職員の勤務場所のロケーションフリー化

現在、校務支援システムは保守業者が管理しているサーバに設置してプライベートクラウド上で運用している。そのため、一部の管理諸室（校長室、職員室、保健室等）からのみアクセスすることができる環境になっている。

次期更新の際には、パブリッククラウド上での運用をするクラウド型の校務支援システムを導入し、教職員の勤務場所のロケーションフリー化をすることで業務の効率化を図る。

３．クラウドツールの活用、FAX でのやり取りや押印の見直しによるペーパーレス化

クラウド環境において汎用のクラウドツールを活用することにより、教職員の事務負担軽減、コミュニケーションの迅速化が可能になる。また、FAX でのやり取りや、押印が必要な業務がペーパーレス化を妨げる大きな要因となっている。これらを見直すことにより業務の効率化、ペーパーレス化を図る。